

# 平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立土岐商業高等学校 学校番号 48

## I 自己評価

### 1 学校教育目標 (略「学校経営」参照)

2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」「生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」という項目において、「あてはまらない」とする回答が生徒で1%に止まった。個々の生徒に応じた進路指導が概ね受け入れられた。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい勤労観・職業観の育成</li> <li>・将来の夢や希望の実現に向けて主体的な進路選択ができるように、学年に応じたガイダンスや講演等のキャリア教育を推進する。</li> <li>・希望する進路を実現できるように、確かな学力やマナーを身に付けるための指導を充実する。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員…インターンシップを実習先事業所ごとに担当</li> <li>・各学年団と連携…ガイダンスや面接指導を実施</li> <li>・教務部と連携…模擬テストの実施と活用</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 土岐商WEP (インターンシップ)</li> <li>(2) ガイダンス、講演、講話を実施する</li> <li>(3) 外部模試、小テスト、コラム書き写し、時事問題研究の継続実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒、担当教員、事業所からのアンケート</li> <li>(2) 生徒および担当教員からの感想</li> <li>(3) 試験結果、提出状況、参加継続の状況</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 1学年でインターンシップを実施</li> <li>(2) 学年に応じたガイダンスや説明会、講演</li> <li>(3) 外部模試、適性検査は2回実施して昨年のデータと比較し、学年の傾向を把握した。小テスト、コラムの書き写しは週1回計画的に行い、定着してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「職業観・勤労観」育成に向けた機会となったか。</li> <li>②将来の夢を思い描けたか。社会人として身に付けるべきことを理解できたか。</li> <li>③基礎学力が身に付いたか。時事問題に興味を持てたか。継続的な取り組みにつながったか。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○インターンシップは、事前訪問から礼状や発表まで、全職員で事業所ごとに担当し、様々な体験をさせることができた。事業所からは「即戦力になった」などと評価を受け、生徒も働くことの意義や厳しさ、人と関わることの楽しさを感じることができた。</p> <p>○将来設計や仕事に関する外部講師の講話を通じて、高校生活で身に付けることや社会で活躍するために必要な力を理解し、具体的な目標を考えることができた。低学年から明確な夢を描き、希望の進路を実現した生徒が多かった。</p> <p>○就職試験や入学試験に向けて意欲的に情報を収集し、積極的に面接指導を依頼するなど試験対策をして臨むことができ、不合格者が少なかった。</p> <p>○時事問題研究、コラム書き写し、小テストは年間を通して行い、入社、入学試験対策ができた。</p> <p>○看護、公務員希望者に対する補習や説明会などを計画的に実施し、合格につなげることができた。</p> <p>○遠隔地の大学に視野を広げたり、異なった入試方法で何度もチャレンジしたりするなど、高い目標を掲げて最後まで諦めずに取り組んだ者が多かった。</p> <p>▲求人数が多く売り手市場であったために危機感に欠け、企業研究などを十分に行わない者も見受けられた。</p> <p>▲日商簿記2級や実用英検2級などの指定校推薦の条件を満たすための資格を取得していないために、チャンスを逃している生徒も少なくなかった。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会で求められる能力や態度を認識し、主体的に進路を選択する力をつけるため、土岐商WEPを継続実施する。また、講演や講話を効果的に開催し、考える機会を増やして早期の選択を促す。</li> <li>(2) 入りたい大学や企業へ挑戦できる力を養う。そのため、模擬試験、小テスト、時事問題学習、面接指導、小論文指導を適切な時期に実施したり、低学年次からの資格取得を働きかけたりして、基礎学力の定着や推薦条件クリア、表現力向上を図る。</li> </ul>	

